

『現代若者研究』メルマガ版

【第7回:時代を牽引する若者とは(その3)】

2022年1月



『現代若者研究』メルマガ版の試み

ハイライフ研究所では昨年度まで、大学生～20代社会人を研究してきた。

公益財団法人ハイライフ研究所では、2019年度に大学生を対象に研究を行い、引き続き2020年度に20代社会人を対象に研究をおこなっています。その詳細は、2冊の報告書としてすでに公開しております。

しかし、私たちハイライフ研究所の若者に対する関心はまだまだ尽きることがありません。そこで、メルマガの形で研究を深めていくことにいたしました。メルマガ発信に際しては、以下を心がけてまいります。

そして、ハイライフ研究所ホームページにアーカイブしてまいります。

メルマガ版での試み その一

過去に発表した報告書で伝えきれていない部分を伝えていく。

メルマガ版での試み その二

若者に関して、新たに沸き起こる興味を紐解いていく。

メルマガ版での試み その三

読みやすく、楽しく、面白く、伝えていく。

なお、内容にご興味をお持ちになった方は、是非とも報告書本体もご参照ください。

※[ハイライフ研究所ホームページ](#)にてご覧いただけます。

(下記報告書の表紙をクリックしていただくと、各報告書 pdf.にジャンプいたします)



第6回のテーマは、 時代を牽引する若者とは？(その3)

クラスター分析で、根底に同質の特性をもちながらも、
20代社会人がいくつかのタイプに分かれることが確認できた。

では、これからの時代を担うような若者とは
どのような人たちなのだろうか？

そこで、少し尖っている若者たち数人に
インタビューをおこなった。

※「尖っている」とはあくまでも私たちの感覚的なものです。

今回は、時代と向き合いながら生きる
4人の若手女性の姿をご紹介します。

※4人の皆さんそれぞれにランダムにお聞きしたお話を、ハイライフ研究所で
構成し、まとめております。

使用データ

【パーソナルインタビュー調査】

- 目的:これからの時代を牽引していくであろう若者像を捉え、
彼らのキーとなる構成要素を見つけ出す。
- 手法:オンラインでのパーソナルインタビュー調査 ※1ケースにつき1.5h~2.0h
- 対象者条件:20代~30代前半 男女
- 調査数: 男性5ケース 女性4ケース
- 実査時期:2021年9月

ケースA(女性30代)

■プロフィール

- ・富山県出身。大学卒業まで富山県で過ごす。
- ・東京の広告会社でクリエイティブディレクターをしている。転職経験あり。
- ・地元富山の男性と結婚して2年。
富山に持ち家(マンション)があるため、東京と富山の二拠点生活をしている。

✓モノを面白く言い換える広告の遊び心に興味をもち、中学生のころから広告に携わろうと決めていた。

もともと広告が好きで、**広告に携わる仕事がしたいなって、中学生位**のときから決めていました。広告の中でもデザイナーをやりたいかったので、美大に通うために高校生のときにいろいろ考えていたんですけども、すごくお金がかかるってことを知って挫折しました。一応、大学は芸術学部ですが、デザイナーではない学部に入学をしました。デザイナーではないけれど広告に携われる道があるので、企画をするプランナーという職業に就いているというのが現状です。

広告の表現に興味がありました。例えば、カップヌードルの昔のCMで、原始人が走ってるみたいな、「ハングリー？」っていうCM。あと、としまえんの広告、「プール冷えてます」というのが好きですね。「史上最悪の遊園地」という、エイプリルフールに出した広告もすごく好きだったんですけど、広告が**企業の商品を面白く言い換える遊びに見えて、それが楽しそう**だなと思って、志そうと思いました。

✓企画を考える楽しさ、自分の仕事を周りから認められる楽しさ。両面の楽しさで、仕事にハマっている。

仕事は遊びの延長線だと思っていて、すごく楽しいので、**お金を稼げなかったとしてもやりたい**などは思っています。

企画するのがすごく好きです。これが世の中に出たらめちゃくちゃ面白いことが起きるんじゃないかっていうことに、常にわくわくしてしまうので、企画をしているときに第一段階としてはすごく楽しい。

二つ目の楽しい瞬間は、**クライアントが**「これ、めちゃくちゃ面白いですね」って言ってくれたときです。**その企画を褒めてくれたとき**、この人、分かってくれる人だというのが、楽しい瞬間ですね。

その次が、**世の中**の人の**反応**です。「何とかのCM、すごい面白いんだけど」とか、「久しぶりにこんなに好きなCM見たわ」みたいなコメントをいただいたときには、本当にやってよかったなと思います。やっぱり、**この瞬間が好きだから、どんなに苦しくても、結局楽しいと思っちゃう**という、ループでやっている感じがあります。反応は最初はTwitterで見ます。時々辛辣なコメントもあるので傷付くんですけど、いいコメントがすごく多くて、今のクリエイターのモチベーションになっていると思います。

- ✓ **出世に魅力を感じないし、マネジメントにも興味がない。いい仕事をしたいということだけがモチベーション。**

私は全く出世欲がなくて、自分がやりたいと思っている仕事をできるようになりたいだけです。いい案件にありつけるような存在でありたいと思っています。出世していくことに対して全く魅力を感じないというか、むしろ、人をマネジメントしなきゃいけないということが自分にとっては余計で、そういう仕事への興味が全くありません。一生現場でいたいなと思います。

出世って何なんですかね。それが一つのバロメーターだったときもあったと思うんですけど、今はあまりそんな感じはなくて、**あの人はこんないい仕事してる、悔しいなって思うほうが自分にとってはモチベーション**です。

- ✓ **もっといい仕事ができるようにレベルアップしたい。名前を出すだけで信頼が得られるクリエイターを目指している。**

もっとステップアップしたいなと思います。もっといい仕事ができるような人になりたいなとすごく思います。**自分にとってのステップアップはもっといろんなクライアントさんに必要とされる人材になること**だと思います。一緒にできる可能性を広げていきたいです。

最近、誰が作るのかということがクライアントに、すごく重視されているなと思ってて。理屈じゃなくて、この人が作るならこういうCMになるなというのが見えると思うんですね。テレビで見ても、これ、どうやってプレゼン通したんだろうみたいなCMって、有名な巨匠が作っているんです。多分、**その名前を信用して**て、理屈ではないところでその面白さが受け入れられているんだろうなと思うので、そういう人になりたいなと思います、将来的には。

もちろん、良しあしはあるとは思いますが、それが商品のためになるかどうかは分からないですけれども、そうやって**信用していただけるようなクリエイター**になりたいなと思います。

- ✓ **自分の居場所はチームで議論しているとき。その瞬間が職業人として自分らしく、また、楽しくいられる。**

自分の居場所だと感じるのは、自分がいつも仕事してるチームと一緒に企画出しとか、アイデア出しをしてるときかなと思います。

私の場合、二拠点生活で場所的には二つあって、どちらも自分の居場所だなと感じるんです。富山の家は旦那と暮らしてるんですけど、東京の家は妹と暮らしてて、妹とすごく仲がいいので、そこも自分の居場所ではあって、落ち着く場所ではあるということなんですけど。

落ち着く場所とか、自分らしくいられる場所ということよりも、**すごく楽しいなって思う瞬間は、やっぱりチームで企画の打ち合わせをしてる時なので、そこが居場所**かなと思います。そこが職業人として自分らしくいられる場所かもしれないです。面白い企画のために少しでも良くなるように議論をするというのが自分のスタイルです。

✓ 働き方改革は正論だと思う反面、仕事を楽しんでいる自分としては違和感もある。

働き方改革は正しいことだとは思っていて、人生は仕事だけではないよというお話なんだと思うんですけど、**仕事自体をすごく楽しんでる人たちはどうしたらいいんだろう**と思います。私も、最近、キャンプの趣味を見つけたので、少しずつ理解し始めてはいるんですけど、やっぱり人生の在り方は一つではないと思います。**仕事と仕事以外を両立させる人生が正しいわけではない**んじゃないかなとは思いますがね。

特に、私たちの業界は、どれだけでも時間を使えるっていうか、時間が決まっているわけではないような仕事なので、働き方改革っていうのはあってないような気はします。私も、新人のときは、企画を夜を徹して考えることをやっていて、それが今の力になってる気もするので、若い人たちはすごく不憫だなと思います。徹夜したいんですけど、今、そういうの駄目らしいんでみたいな感じで、行き場所を失ってるっていうか、努力の仕方を奪われてるような気がします。

✓ 結婚して二拠点生活(東京で仕事)をしていることが、仕事で証を残したいという意欲にドライブをかける。

最終的には、生きていた証を残したいなと思います。別に、私が存在しなくても、世の中、変わらなかつたら意味ないかなと思うので、何か一つでも生きていた証を残したい。大学生ぐらいのときからそう思っています。

自分の環境が大きいと思うんですけど、**私が二拠点生活を始めた瞬間から**、結婚してるのに東京の仕事してるというのが、**いろんな親戚から風当たりが冷たい**。私の親戚もそうだし、旦那の親戚もやっぱり冷たいので、私が何か功績を残したりとか、この**仕事をしている証**っていうのを**証明し続けたい**と、この仕事を続けさせてもらえないんじゃないかという謎の圧迫感を感じてる時があって。ちょっとでも早く、広告業界の中で活躍しないといけないというのはあります。

✓ コロナでリモートワークが増えて、生活のパターンや仕事の進め方の自由度が広がった。

コロナ前にマンション買ったので、もともとは、土日だけ富山に帰って、また、月曜日の朝に東京に帰るみたいな生活をしていました。**コロナになってから本当に暮らしやすくなりました**。暮らしたい暮らし方というか、生き方がどんどん増えてく感じがします。週末だけ富山に通うの、疲れて、やっぱり無理だなと思っていたかもしれないです。

リモートの利点はすごくたくさんあるし、逆に、**地方に住んでる人ともコラボしやすくなった**という面もあります。

ケースB(女性20代)

■プロフィール

- ・東京都出身。
- ・大学は文学部。大学時代に1年間オーストラリアに留学。
- ・エネルギー系企業に就職したが、最近外資系のコンサル会社に転職した。

✓ 父親に憧れて、仕事の世界でバリバリやりたいと思っていた。仕事選びでは“スケールの大きさ”も条件のひとつに。

父親にすごく憧れてて、私は女の子だけど、いつかお父さんより稼げるようになりたいと小学校ぐらいからずっと思っていました。どこかでお父さんに負けたくないじゃないですけど、お父さんみたいな社会人になりたいと思っていました。

一般職とか事務職とかは、受けようとは思わなかったです。就職するときには、自分のやりたいことと、お給料が見合うかということと、スケールが大きいみたいなことは考えていました。日本社会にインパクトがある業界がいい、日本のプレゼンスを上げられるような仕事がいいと思っていました。海外に留学してみて、日本はあまり先進国だとは思われてないんだなっていうのを感じました。

✓ 仕事をすることに、そもそも興味や自信があった。アルバイト経験でエンドユーザーに関われる仕事に目が向いた。

私はあまり勉強は好きじゃないなって思います。仕事のほうが好きです。それはアルバイトを始めてからですか、大学生のときとかかもしれないです。でも、高校生ぐらいのときから、私は絶対、勉強より仕事のほうが得意だろうなって思っていました。

適宜、対応するとか、予期せぬ出来事が起きたりとか、学校っていうコミュニティ以上にビジネスではいろいろな方に出会えると思ってたので、私はそちらのほうが得意というか、好きだろうと思っていました。

大学時代にテーマパークでアルバイトをしていて、接客業がすごく好きだったので、エンドユーザーと接せる部分もあったらいいと思っていました。

(アルバイト経験で)マスのなところよりも、一人一人がどう思うかっていうところを、ビジネスにするほうが面白いと思ったんです。ビジネススキームではなくて、このお客さんはこう思っているから、こうしてあげたほうがいーだろう、というようなことをやりたいと思いました。

✓ モチベーションの低い年長者、声大きい人が出世する風土など、自分の成長が見込めないことで前職に見切り。

私は働くのが好きなので頑張っちゃうんです。前の会社では、**自分がバリバリとやっている中で、周りがバリバリしてないということが一番嫌でした**。私は一刻も早く上に行きたいとか、成長したいとか、何かやりたいと思うのですが、関西支社勤務でしたが、同じ課の人はオーバーフィフティが多く、あと数年をこの会社でどう過ごすかという感じで、私と働くマインドが違っていました。このままだと、**周りから刺激を受けて成長することができない**と思って、それですごく嫌になりました。

前の会社は、若者が「こうだと思います」というのが好きな会社なんです。それはすごくよかったのですが、周りで声を上げる方がいなかったのも、**私がこう思いますって言ったら、それがそのまま通っちゃう**みたいなの。

でも、それって正しいかどうか分からないじゃないですか。しかも社会人になってすぐの、ペーパーの子が言った意見が通っちゃっていいのかと思いました。「こういう示唆もあるよね」とか、「こうしたらもっとよくなるよね」と言ってほしかったのに。それは関西支社だけの話じゃなくて会社としてもそうで、**声大きい人がどんどん出世していく**んです。

声大きい人だけが上に行って、その確からしさっていうのが一つもないまま、会社がどんどん進んでいくというのが分かって。このままここで働いてたら、もしかして偉くなれるかもしれないけど、**ただのふんぞり返った人になってしまう**思ったんです。

✓ “意味のないことはやりたくない”“率直に発言したい”。そういう自分に合うと思える外資系企業に転職。

日本の企業は校則が厳しい学校みたいなイメージです。アウトプットを出すためだったら、こっちの手段のほうが早いし、無駄がないし、効果的なのに、**日本企業の場合は根回しとか、まず部長の承認を取るための資料を作るというカルチャー**があると思います。そこに時間を使うのは、私には合わないと思う。中高ぐらいから予兆はあって、校則を破ったりするような感じではなかったんですけど、この校則って意味があるんだろうか、全然やりたくないみたいに思っていました。従順な部分もあれば、**それは意味があるのかと思うタイプ**だと思います。

転職した会社は、大学生のときから行きたい会社でした。大学生のとき、すごく行きたかったんですけど受からなくて。カルチャーが合うと分かっていたので。相手が例え偉い人であったとしても**シンプルに考えて、シンプルに発言してくださいというカルチャー**があるのを知っていました。外資系だし、日本企業みたいなどころはないだろうと思っていました。その会社にいる大学時代の友達に紹介してもらって転職しました。

✓ 偉くなりたい、会社で地位を得たいと思っている。

絶対、**偉くなりたい**なと思ってます。偉くなるとは昇進かもしれないです。企業にいる以上は地位だと思います。でも、今後、例えば私が企業で働かなくなったときには、人から認められたときっていうか、人から仕事をもらったときだと思います。

- ✓ **まずはマネージャーを目指す。仕事上の決定権とともに、自分の市場価値を高める上で欠かせない。**

今の会社で、難しいですけど、最低でも一番下の役職者にはなりたい。マネージャーといわれる人たちで、プロジェクトの統括をする人です。マネージャーの位置だと、人、予算、成果、クライアントさんとの関わりなど全てに責任があります。マネージャーは多分、日本企業で課長クラス、その上で部長クラス。取りあえず、マネージャークラスを目指したいと思っています。

ある程度の責任は伴いますが、**決定権と、あとは〇〇でマネージャーをしたという肩書が得られる**と思っています。これは、名声という意味ではなくて、その次にもう一回、事業会社で働くとしたら、元〇〇のマネージャーでしたという肩書は欲しいと思っています。普通に結婚して子どもが欲しいと思っています、自分に役職がなかったら、次に採ってくれる企業でのステータスも上がらないだろうなと思っています。**子どもがいても、高い市場価値にとどまるためには役職が必要**だと思っています。

- ✓ **上を目指すことで経験の幅が広がるはず。“何でも経験したい”の先には、人から認められたいという思いがある。**

権限をもつことで、自分ができる幅がすごく広がると思います。自分が見えなかった世界が見えるのがいいなと思います。例えば、役職がなかったら、自分の下に部下が付くという経験も見えない。クライアントさんと同じような立場の役職者の人とひざ詰めで話し合うこともできないと思います。**役職を目指す過程も含めて、なった後も経験が広がる**と思います。**興味や好奇心がそのルーツにある**のかなと思います。

何でもやってみたいほうです。それに伴って、**誰かから認められたい**という思いがあると思います。誰でもいいんですけど、お客さんにありがとうと言ってもらうとかでもいいですし、社内でその働きが感謝されるでもいいですし、**第三者から正の感情を抱かれたい**ということだと思います。私は多分、褒められ過ぎて、もっと褒められたいと思うタイプだと思います。もっとできると思うし、そのために私はもっと頑張るから、もっと褒めてほしいみたいです。

- ✓ **足場を固めて、子どもができて第一線で働きたいと思う。その半面、そのときの気持ちで柔軟に進もうとも思う。**

30歳までにマネージャーになって、ちょっと働いた後に**子どもが欲しくて**、そのときは育児に専念して、**その後、もう一回、マネージャーとして復活したい**と思っています。(結婚する相手も)賛成してます。相手も専業主婦にはならないでほしいとか、絶対に外で働いてほしいとか。私が忙しいと喜ぶタイプなので、応援してくれていると思います。

プロのお母さんという道もあると思っています。傍らで何か社会的に活躍したいなどは思っちゃうかもしれないですけど、それは会社じゃなくもいいかなと思います。佐藤ママみたいになっちゃおうみたいな。あまり望んではないですけど、可能性はゼロではないという感じです。子どもは好きなので、**子どもが生まれて感情が変わるかもしれない**とも思います。バリバリだったけど、子ども産んだら、キャリアはどうでもいいわになるかもとも思います。

ケースC(女性30代)

■プロフィール

- ・宮崎県出身。大学から東京に居住し、横浜の大学に通う。
- ・大学ではマルチメディア文化を学んだ。
- ・大学卒業後、IT会社に就職。その後、デジタル系の広告会社に転職。
- ・現在はマネージャー職で部下がいる。

✓ 大学時代は複数のサークルに属し、かけもちでアルバイト。アルバイトで、人と一緒に働く楽しさを知った。

大学時代いろんなバイトをしていました。キャンギャルっていわゆるキャンペーンガールだったり、飲食店の3つかけもちとか、サッカーや野球の試合で観客がワーッと押し寄せないようにガードするスタッフとか。

アルバイトはそれぞれが面白くてやっていたという感じなんですけど。サークルも3つぐらいやってたので、せわしく動くのが好きなんだと。サークルはバスケットとフットサルと放送研究会です。大学時代、ずっと動いてました。

一緒に働いてる人が好きで、本当に遊びに行ってる感覚でお仕事してたので。お金以外にアルバイトに駆り立てたものは人です。一緒にお仕事してて楽しい。業務に対して近い感覚の子と一緒に取り組んでて、これ大変だねって言ったりとか、やったね、みたいなのが楽しいかなって思いました。

✓ アルバイト経験で“これだ”と思ったIT系に就職。だが、もっと華やかに活躍することを求めて転職。

アルバイトをいっぱいやった中で、家電量販店でインターネットの営業をやってみたら、ネットっていうかシステム売るのがちょっと楽しいかもみたいな気持ちになりました。それで、最初、IT会社に就職しました。

航空システムとか宇宙システムとかやれるのかな、楽しみって思っていたら、自分の担当は、エレベーターのインフラシステムで。絶対、止まっちゃいけないやつだけ動いてるのが当たり前みたいな感じで注目なんかされない。しかも、やってることは、システムエンジニアさんに頭下げて、こうやってください、高くないですか、この金額、とか。私のやってること、めっちゃ地味って思っていました。

それに、毎晩、お客さんと飲みに行かないといけなくて。スナック通いしないといけなくて。しゃあないなと思ってやったんですけど、私、こんな感じでいいのかな、みたいな。埋もれていいのかなとも思ったし、私の今やってることって、何て言えばいいんだろう、そんな大したことしてない。華やかじゃないの一言かもしれないですね。

システムをリプレイスし切ったから、“もうやることくない？ IT飽きた。全部、一通りやったわ、このシステムで”と。「一通りやったので、次の成長のために、辞めます」って言いました。

✓ **新しいことを知り、携わることで、自分の幅を広げることが楽しい。その根底には、感謝されたいという気持ちがある。**

IT会社以外で、と人材会社の人をお願いしたら、今の会社を持ってきました。ITは一通りやったから飽きたなと思って。

思い返すと不安はあったのかもしれないけれども、次のステップに行きたい気持ちが勝っていました。**次のステップはIT以外の業界を見る**、です。見て、知って、携わるっていうことになると思います。自分ができなかったことの対応できるようになると、世の中を知ることができて、人生の楽しみ方が出てくるのかなと頭の中に浮かびました。

新しいことに接触する、知ってということに対して楽しみを覚えてるのかなと思います。だから、これ興味あるかもとか思ったら、**すぐ行動に移しちゃう**のは多分、**新しいことを知って携わることに楽しみを覚えてるんだらう**なってる。

自分が目指しているものは、**いろんな人からありがとうって言われる機会が増えること**かなと思います。いろんなことに対応できて、あの子に言えば何か出てくるかも、みたいな。出てきたらありがとうと言われることが増えるかなって思って、私はそれに嬉しさを覚えるかもしれないです。

✓ **今の仕事に向いていると思うし、マネジメント職は好き。でも、女性役員にまで上りつめていくことには興味がない。**

得意なのは調整力とプロジェクト実行力。いろんな役割の人をまとめて提案するみたいなのをやるのが得意。発想力も必要です。それと愛嬌も大事かなと思います。

愛嬌でお願いって言うところ、私はこうしたいからこういうふうに動いてもらいたい、なぜならこうだからって論理的にお話して説得するみたいな。**ノーロジックの愛嬌と論理型でちゃんと話すっていうバランス**。今の仕事は向いていると思います。

マネージャーになったとき、すごく嬉しかったんです。部下ができてマネジメントができるなって。会社にどう貢献できるかを考える**マネジメントプレーヤーになるのは嬉しい**なと思って。私、多分、そういうの好きなんだと思います。

ここ最近、上長と話すことがあって、**女性役員にゆくゆくはなったらいいのに、と言われたときに、全然興味ない**っていうか。別になっても、なんなくともどっちでもいい、お金さえもらえればって思った自分がいて。少なくとも**上にのし上がりた**って気持ちはないんだなってことがそこで分かりました。

✓ **再び、転職を検討中。なりたい自分が何か、目指すことが何か、見えなくなっている。**

今、目標、見失ってるかもしれないですね。『半沢直樹』みたいに、やりたくないことやらされて。そのときに、**この会社に対して幻滅**したのはあります。

ちょっと転職したいという気持ちになっています。転職活動し始めました。面接で、あなたの志望動機はとか、キャリアビジョンはとか聞かれたときに、本当にやりたいことかなど。まだそこが整理できずに、**この先やりたいことは何だろうと、今まさに、向き合ってる最中**かもしれないです。

ケースD(女性20代)

■プロフィール

- ・東京都在住。大学から、実家を出て一人暮らしをしている。
- ・医療系の大学で学ぶ。その時出会った車いすバスケが趣味。
- ・大学卒業後、出版社に就職。広告局で営業をしている。
- ・転職経験はなし。

✓ 早く自立したいと思っていた。社会人になった今、一人で暮らす解放感を味わっている。結婚したいとも思わない。

私、自立したかったというか、早く働きたいと思っていました。高卒で働いてもいいかなぐらい、自立したかったのですが、何となく周りも大学行くし、進学校にもいたので、じゃあ、興味あるところ行くかと思い大学に行きました。そのときから、出版社に興味はあったんですけど、母親が資格もあるといいよと言っていたのもあり、医療は興味もあったので、最終的に選びました。

働きたかったのはお金というよりは、一人で生活するのがいいなという感じだと思います。それで、大学が決まってすぐに家を出ました。一人暮らしです。別に家族と仲が悪いわけではないし、今も帰ったりはするんですけど、一人がめっちゃめっちゃ楽です。実家にいると養ってもらってる感があったというか。何でしょうね。社会人になってからのほうが気持ちが楽な感じです。

彼氏はいますが、結婚したいとも思わないし、別に正直、彼氏がいても、いなくてもそんなに変わらない。子どもとか絶対、育てられないなと思います。彼氏も自由な感じ。

✓ 入社時には雑誌の編集がやりたかった。だが、編集もルーティンワークに思え、楽しい仕事には見えなくなってきた。

編集をやりたいなと思ってたんですけど、逆に今の部署は居心地もいいし、編集部が縦割り制などところがあるので、どこに行きたいというのも現状はなくて、困ってるという感じです。編集をやりたい、この編集部がいいという、明確なものがあれば、その部署に行くというのが一番、近道なんですけど。それで言うと、そういうのが今のところなくなっちゃったので。

入社ときは、●●の編集部がいいなあとか、言ってたんですよ。女性誌だったら何でもよくて、雑誌の編集の仕事がやりたかったんですけど。でも、入ってみたら、別に編集部にいたところで楽しいか、どうか分からなくなってきたというか。内側から見たら、なんか違うかもなみたいなの。

別に●●という雑誌が今、世の中で人気があるというわけでもないし、ルーティンな感じで編集してるのって面白いのかなとか思ったりとか、月刊誌なので。逆にそっちがルーティンワークになるじゃないですか、今度。多分、編集部に行ったら。

✓ **今の職場は居心地がいいが、仕事を回すだけのルーティンワークに物足りなさを感じている。**

仕事は今では正直、**物足りない感じ**がすごいです。多分、働くのが本当は好きなんですけど、ちょっと前のほうが、やる気というか、頑張ってたなというか。コロナになったのと、担当も変わったりとかで、割と暇なんです。

今の仕事は広告の提案です。担当雑誌関連の広告を取ってくるというのがマスト業務です。**ルーティンみたいでやってても特に楽しくなく。日々、回してる**みたいな感じが強い。

つまらないなと思ってやってるわけじゃないですけど、**いつも違うことしてたり、変化があるほうが好き**です。案件によって大きく変わることもなく、むしろ事故らないように進めているだけなので。

✓ **型通りの仕事はつまらない。通常業務の他に、自主的にやっているムックの編集は、自由度が高くて楽しいと感じる。**

(通常業務とは別に)社内チームで雑誌の編集もやっていて、カメラマンさんに写真をお願いして、いい写真上がってきたりとか、原稿が面白いって言われたり。デザインが上がってきたときの感動は大きいですね。才能ある人たちから、いいものが上がってくる感じは楽しいです。

いろんな部署のやりたい人だけが毎回、年2回ぐらい出してるんですけど、集まって、じゃあ、いつ出そうかみたいなのところから始めて、どうしようかみたいなのを会議して、**本当にやりたい人だけがやっている**という感じですね。

多分、**こちらのほうが躍動感がある**と思います。普通に編集部にいても、みんなが前向きにやってるとも限らないといえますか。

✓ **面白いことができるなら、役職にはこだわらない。自分が頑張りたいと思うことだけやりたい。**

キャリアプランはちゃんと稼いで、一人で生きてみたいの人に憧れがあるんですけど、キャリア願望はそんなになくなりました。**別に、いい役職に就きたいとかない**ですね。多分、編集長になりたいというのもあったと思うんですけど、**ポジションというよりは単純に実務的な権限が欲しかった**。もう既にムックの編集で結構やってるので、ポジションはそんなにいらぬとは思っています。

編集長は自由に自分の方向性でやりたい雑誌が作れる。逆にいうと、例えば●●の編集長になったら、●●をどうするか考えなきゃいけない。別に●●のこと頑張りたいくないなみたいなのはあるから、それだったら、今、さあどうしようかって、**みんなで考えてるムックの編集で、やってることはほぼ編集長と一緒に**なんです。取りまとめでとか、社内の会議仕切ってとか。

✓ **コロナの影響でメリハリがない日々**に退屈している。変化を求めて、**海外留学をする予定**。特に大きな目的はない。

ちょっと前は100%満足みたいな感じだったんですけど、今でいうとコロナで、海外行けない、車いすバスケできてない、**暇で、マイナス**です。社会人1、2年目ぐらいのほうが給料入って、海外予約して。基本的には一人で海外行って、めっちゃ楽しかった。大体、世界遺産をめぐるんですけど、オーストラリアの絶景スポットとか。

海外に留学しようかなとは思ってて。それは最近、決めたんですけど。**あんまりにも暇すぎて**。でも、海外行こうって思ったら、ちょっとやる気が出てきたといいますか。来年、行くのは海外、その後、どうしようとか、あまり考えてなくて。そんなに長生きもしたくないし。

突っ走りたい。突っ走って終わりたいタイプなので。多分、会社が休めるのが最大2年ぐらいなので、マックス2年。

留学の目的は、英語、もともとしゃべれるようになりたいというのはあったので。今もオンラインレッスンをしています。**英語しゃべりつつ、日本離れて生活したら楽しそうだな**という感じです。変わりたいんじゃないで、**変わったことがしたい**。

✓ **生活や将来に不安は感じない**。一人で生きていく**自信があるし、それを望んでいる**。

不安にはならないですね。ただ、やることがないのが不安というか、暇だけで、多分、私の場合は。今のところ、まだ暇ではあるんですけど、留学に行こうとは決めたので、いいんですけど。

不安、何モノでもない感じみたいな、いわゆる不安は特にないですね。

「**自信ないね**」とは言われたことないです。「**自信あるね**」って言われたことはあるんですけど。生活不安とか、将来不安とか、あんまりない……。

「**一人で生きていけそうだね**」と、人からよく言われるので、そうだとは思うんですけど。それでいいというか、多分、それが望んでることに近いと思うんですけど。

✓ **世のため、人のためという発想もない**。**流れにまかせて、興味のあることに出会えたら、それに乗る**。

世の中のためとか、人のためとか全く思わないですね。環境問題とか興味ないし、SDGsでマイボトル持つのブームとかあるじゃないですか。大体、不便なので。人のためとかないですね。

一応、会社も規則的に戻る前提の休業なので、海外留学から戻るというふうにはなってるんですけど、多分、私の性格上、**海外で仕事見つかったら、即、会社を辞める**と思います。会社には失礼ですけど。

4人の女性にインタビューしてみて、彼女たちに共通するコトや意識があることを感じた。もちろん、個々で仕事の内容や取り組み姿勢は異なるのだが、彼女たちに共通するマインドを浮き彫りにしてみた。

思い立ったら、あれこれ逡巡することなく、即行動にうつす。

〈パワフルで行動力に溢れている〉

- アルバイトでも部活でも仕事でも興味をもったら、飛び込んでいく。また、それをこなせる力がある。
- とにかく仕事をするのが好きで、めいっぱい働く。
- 仕事に不満があれば、自分のやりたい方向へと身軽に方向転換をする。
- 左脳的というより、直観的で右脳的に決断して行動していく。

ひとつの会社で出世するという発想がない。

〈良くも悪くも、会社という枠組みに囚われない〉

- 権限を得ることで経験できる領域が広がること、将来的な転職の際に切り札になること、など役職を戦略的に捉えている。
- 今のところ、女性役員に魅力を感じてないし、なりたいとも思っていない。
- 会社の枠組みより、もっと広い世の中で評価されたいと思っている。
- 会社に大きなこだわりがなく、また、自分に自信があるから、躊躇なく転職する。

役職という基準ではない、上昇志向がある。

〈自分の成長を強く望んでいる〉

- いい仕事ができるように自分のレベルアップをもっと上げたい、周りから刺激を受けてもっと成長したいと思っている。
- 新しいことを知り、経験し、自分の幅を広げることが楽しいと感じている。
- 仕事を単に回しているだけの無難な日々は苦手で、変化をどんどん経験していきたいと思っている。

《次ページへ続く》

世の中の大きな動きより、自分の世界。

〈大義名分より、自分の興味・関心に従う〉

- 自分の感性で、面白いと感じること、楽しいと感じることを仕事にして、邁進している。
- バックヴィジョンや社会的意義をあまり必要としない。そこが男性とは大きく異なる。

褒められたい、感謝されたい…

〈仕事の先に承認されたいという思いがある〉

- 一緒に仕事をしている人、顧客、エンドユーザーなどから、自分の仕事を認めてもらえることが、喜びとなっている。
- そういう思いが根底にあり、また、次のステップに繋がるモチベーションにもなっている。

女性は結婚で仕事への取組み姿勢が変わらざるを得ないが…

〈結婚を契機とした意識の変化も前向きに捉える〉

- 結婚したことで、むしろ、仕事を突き詰めようという気持ちが強く沸き起こることもある。
- 一方で、ライフステージの変化を受け入れながら、その時々感情に従おうという逞しさもある。

インタビューした4人とも皆、極めてパワフルに、そして、バリバリと仕事をしている。だが、仕事で自分の確固たる居場所を見つけているとは限らない。

一方で、男性に比べて、彼女たちは自由だ。会社という小さな枠にハマろうとも思っていないし、社会という大きな枠にも囚われていない。

もちろん、結婚というライフステージの変化は大きな足枷でもあるが、そこも柔軟に乗り越えてゆきそうだ。

大きな可能性を秘めた彼女たちの居場所や受け皿をどう作っていくのか、それが大人たちの役割だ。彼女たちが真に活躍することが、これからの時代のキーとなるからだ。